

# 【複数年度(2年目)】賑わいのある道路へ～限られた道路空間の再構築～(山梨県)

## 1. 実験概要、留意すべき項目

- 歩車一体舗装、クランク、狭さを設置し、観光地における歩車共存の検証を行うとともに、GPSやAIカメラを用いてデータを取得して商店街への回遊効果が高い仕組みを検証する。
- 歩行者の快適性や歩車共存の評価手法の検討、沿道の観光施設と協働した歩車共存空間の構築について、全国的に周知・推奨すべき取組みとなり得ること。

## 2. 実験内容、実験結果

- 回遊性を高める効果的な情報発信  
⇒十分な周知が図れず、情報発信の十分な活用はされなかった。
- 駐車場満空情報の提供  
⇒来訪者の駐車場選択や行動に影響が見られた。
- 交通誘導看板の設置  
⇒看板設置前後で、交通分担率の変化はなかった。
- 歩車一体舗装  
⇒走行速度の低下が確認できた。
- スムーズ横断歩道  
⇒横断歩道以外を横断する歩行者が減少した。
- 狭さく  
⇒走行速度の低下が見られ、一定の効果があった。



スムーズ横断歩道



狭さく

山梨県身延町久遠寺  
再度で社会実験を実施します

散策しやすい安全な道路空間を構築して、にぎわいある門前町を目指す社会実験を実施します。

2021年 11月 実施

身延山久遠寺を中心とした門前内商店街や駐車場からなる門前町では、周辺マップや勧誘による案内、スマートフォンを活用したスタンプラリー、ガイド付き周遊ツアーなどを実施します。

また、道幅が狭く歩道がない道路において、歩行者が安全に散策するための取り組みを行います。ゆったり歩ける道路空間で、歩行者と車の出入りが容易に交差する身延山ならではの魅力にあふれ、賑わいある門前町の実現に向けた取り組みを進めます。

歩きたくなる門前町へ！  
久遠寺から門前商店街まで  
散策をお楽しみください

久遠寺から商店街までの散策を快適にするための実験も実施します

テーマ別の周辺マップと  
新着によるスマホ案内  
スマホの周辺マップ機能による  
エリア案内が活用されています。  
それぞれの目的にあった案内も、  
スマホの周辺マップ機能で  
活用し、散策の楽しみを増やします。

スタンプラリーを開催します  
アプリ連携したスタンプラリーを開催し  
ます。散策の楽しみを増やします。  
スマホの周辺マップ機能による  
エリア案内が活用されています。  
それぞれの目的にあった案内も、  
スマホの周辺マップ機能で  
活用し、散策の楽しみを増やします。

モニターツアーを実施  
11月20日(土)・21日(日)  
身延山久遠寺を中心とした門前内商店街や  
駐車場の案内、散策の楽しみを増や  
すためのモニターツアーを実施し、  
身延山久遠寺を中心とした門前内商店街や  
駐車場の案内、散策の楽しみを増や  
すためのモニターツアーを実施し、

交通情報にご協力をお願いします  
門前内商店街の歩行者の歩行速度の  
低下が確認されたため、交通情報に  
ご協力をお願いします。ご協力  
がなければなりません。ご協力  
がなければなりません。ご協力  
がなければなりません。

駐車場の満空情報を提供  
11月10日-16日  
身延山久遠寺を中心とした門前内商店街や  
駐車場の案内、散策の楽しみを増や  
すためのモニターツアーを実施し、  
身延山久遠寺を中心とした門前内商店街や  
駐車場の案内、散策の楽しみを増や  
すためのモニターツアーを実施し、

来訪者向けチラシ

## 3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
久遠寺、身延山を含めて、全体の露出が少ないと感じる。久遠寺の魅力や、こういった宗教活動をしているのか、一般の方に心理的な共感を生むような情報が提供できると良い。	中部横断自動車道も開通して、広域から来訪しやすくなっており、地域でアピールをすることで、高速道路の活用にもつながると考える。
せいしん駐車場を拡張することは難しいため、将来的には総門駐車場からバスで回遊するなどのルートも考えられる。	最も大きい駐車場が、地域の奥まった所にあり、混雑時は、一方通行やパークアンドライドを行ってはいけるが、コスト面などで課題がある。パークアンドライド運営方法の検討も進めていく。
路面表示でも狭さくができる。来訪者が多くはない時期や、初めての来訪者に配慮した工夫があると良い。一方通行にしたとしても、減速させる仕組みは必要だと感じる。	物理的に設置することは、通常時の道路の通行において地域の反対が大きい。そのため、今後は、路面表示で視覚的に外側線を内側に狭めることを検討する。設置に向けては、地元や警察との協議を進める。
景観的に赤がよくないという話があったが、色の要望に関するアンケート結果はあるか。	凸部の色は国交省とも相談しながら検討する。凸部を目立たせるとしても、少し明るい石の色など、地域に合う景観色でコントラストを出すことができないかと考えている。
歩行者がいたときに停車する車両状況に関するデータがあると良い。	一時停止する車両割合について分析を実施した。

## 4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
情報提供の要望が高い観光施設、名所の見どころなど各施設の魅力を伝える情報提供を拡充が必要である。	アフターコロナを見据え、インバウンドも意識した情報提供を検討する。
情報提供の実施をホームページ等で情報を提供するなど十分な周知が必要である。	道路上の看板の視認性向上(看板の素材、文字の大きさ等)が必要である
情報提供による効果はみられず、媒体、記載内容、情報提供位置など誘導方法の再検討など、せいしん駐車場混雑時の抜本的解決策が必要である。	次年度は、対策のひとつとして、混雑時にパーク&ライドを安定的に行える仕組みの検討を行う。
本格施工に向けた施工方法を考慮した舗装パターンの検討が必要である。	次年度は、今回の実験で実施したような塗装区間の延伸を予定する。
本格的な施工に向けて、景観に配慮したドライバーに事前に凸部があることの示し方の検討が必要である。	次年度の施工を予定する。
狭さくについて、物理的に幅員を狭める方法以外の検討が必要である。	視覚的な方法など、狭さくの導入は更なる検討を行う。

## 5. 今後のスケジュール

- 令和5年度以降:電線共同溝整備の状況に応じ、本格施工に向けて舗装を検討  
歩車一体舗装の施工に合わせて狭さくを設置  
観桜期にパークアンドライドを試行  
ガイド付きツアーを実施

## 6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 狭さくやスムーズ横断歩道は住宅地などの生活道路に設置される事例が多い中で、観光地における効果検証は、意義のあるものだと考える。
- 生活道路における車両の速度抑制の対策は、色彩などにより対策の存在を目立たせることも重要であるが、今回のような観光地においては、景観へ配慮することも必要であるため、景観に配慮しつつ、道路利用者に対し対策実施をアピールできる手法を検討していくことは今後の課題である。
- 狭隘道路における取組として、歩者一体舗装のような視覚的手法やスムーズ横断歩道のような物理的な手法など、複数の対策を組み合わせることが更なる効果発現につながると考える。